

# 浅間一城の虹の輪（第3学年）研究計画

## 1 本研究で目指す子ども

総合学習入門期に当たる第3学年において地域の伝統芸能を扱い、**自他の学びをつなぎ、学習対象に対する思いや願いを更新する子ども**を育むことを目指す。「自他の学びをつなぎ」とは、自分と友達や専門家との知識や経験を、比較したり関係付けたりする姿を指す。「学習対象に対する思いや願いを更新する」とは、できるようになったこととその要因をとらえ、「友達ともっと～できるようになって一緒に喜びたい」などと、次のサイクルの学習活動を創り出す姿を指す。

これまでの総合学習でも、地域の伝統芸能を学習対象とする授業が見られた。そこでは、伝統芸能に携わる人々が、「伝統芸能を継承することを大切にしている」という思いや願いをとらえることができた。しかし、とらえたことを基に、自分が地域の伝統芸能にどのようにかかわっていくかという、自己の生き方に結び付けることは難しかった。

これには、二つの原因がある。

一つ目は、単元の構造上の問題である。それは、伝統芸能がもつ魅力を十分に理解する前に、伝統芸能に携わる人々の思いや願いをとらえることを目的とした学習課題を設定してきたことによる。総合学習入門期の3年生にとって、思いや願いは抽象度が高くとらえにくい。伝統芸能がもつ魅力を十分に理解する段階が必要である。

二つ目は、指導上の問題である。振り返りの活動場面において、文字言語や絵などによる振り返りに留まっていたことによる。子どもは、何ができるようになったのか、その要因は何かとらえることが難しかったのである。

そこで私は、次のような改善を図る。

一つ目は、様々な教科と密接に関連する地域の伝統芸能を扱う単元を構想することである。子どもは、課題を解決するために、総合学習の資質・能力と他教科の資質・能力を発揮しながら課題解決する。子どもは、伝統芸能がもつ魅力を十分に理解し、次のサイクルの学習活動を創り出すことができる。

二つ目は、デジタルポートフォリオを活用させることである。動画で、活動の様子を蓄積させていくことで、できるようになったこととその要因をとらえ、次のサイクルの学習活動を創り出すことができる。

前述の改善により目指す姿を具現する。

## 2 本研究で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

「見方・考え方」		
○伝統芸能がもつ魅力に着目し、伝統芸能とかわる自己の在り方を考えること (以下、総合学習に固有な「見方・考え方」)		
①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○実社会・実生活における様々な課題の解決に関する知識・技能	○整理した情報を多面的・多角的に解釈する力	○課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとする態度(A) ○自ら社会にかかわり、参画しようとする態度(B)

## 3 主張する働き掛け

子どもは、出会った伝統芸能の魅力に惹かれ、自分も取り組んでみたいという思いをもった。取組がうまくいきはじめると、子どもは、伝統芸能を通して他者とのかかわりを求めるようになる。そのような子どもに、取り組んでみたいことを問う。子どもは、自分ができるようになったから、次は、友達と一緒にできるようになりたいと、次のサイクルの活動を思い描き始める(CO)。このような子どもに次のように働き掛ける。

### 働き掛け1

**モデルとなる専門家の取組を提示し、取り組んでみたいこととその理由とを問う。**

本サイクルの学習活動を創り出させるための働き掛けである。

モデルとなる専門家の取組を提示する。憧れを抱かせるためである。子どもは、専門家の取組の様子に興味・関心をもち、憧れを抱く。次に、やってみたいこととその理由を問う。伝統芸能の魅力をとらえさせるためである。子どもは、**総合学習に固有な「見方・考え方」**を働かせ始め、伝統芸能の新たな魅力に気付く。そして、再度、やってみたいことを問う。総合学習に固有な「見方・考え方」を明確化させ、3サイクル目の学習活動を創り出させるためである。子どもは、**総合学習に固有な「見方・考え方」**を働かせて「専門家のように、～したい」などと、思いや願いをもち、本サイクルの学習活動を創り出す。

### 働き掛け2

取組の場を設け、気付いたことを問うた後、課題解決につながる情報を追加提示する。

課題を設定させ、解決するための方法の見通しをもたせるための働き掛けである。

取組の場を設け気付いたことを問う。イメージとのズレを自覚させるためである。子どもは、思いや願いをもつきっかけとなった専門家の取組を比較対象として想起し、思い描いていたイメージとはズレていることを自覚する。次に、そのように思った理由を問う。課題を設定させるためである。子どもは、イメージとのズレを基に学習課題を設定する。そして、課題解決につながる専門家の取組の情報を追加で提示し、映像から分かる具体的な取組みとその意味とを問う。課題解決の見通しをもたせるためである。子どもは、解決の見通しをもつ。

### 働き掛け3

取組の場と、その様子を振り返るという場を、複数回設定する。

実際の取組から、情報の収集、整理・分析を促すための働き掛けである。

実践の場を設ける。子どもは、資質・能力を発揮して、協働的に課題解決に取り組む（協働性）。次に、タブレット端末を活用させ、グループで振り返る場を設ける。情報の収集、整理・分析を促すためである。子どもは、映像を手掛かりとして、試してきたことからうまくできているところ、うまくいっていないところに、自分で気付いたり、友達の発言から気付いたりする（総合②思考力・判断力・表現力、協働性、ツール活用能力）。そして、自己の振り返りの場を設ける。自分ができたことと、その要因を自覚させるためである。子どもは、グループでの振り返りを基に、その時点でできたことと、その要因をとらえる（ツール活用能力）。なお、働き掛け3は、一定期間、繰り返す行う。

### 働き掛け4

成果を発表する場としてモデルである専門家から取組を価値付けてもらう場を設け、発表後に、結論と今後取り組んでみたいことを問う。

課題を解決させるための働き掛けである。

モデルとなった専門家に来ていただき、成果発表する場を設ける。資質・能力を発揮させ、課題解決させるためである。子どもは、これまで学んできたことを生かして、課題解決に取り組む。そのような子どもの取組を、専門家から価値付けてもらい、結論とこれからやってみたいことを問う。子どもは、専門家の話から自分たちの課題解決の表現としての取組やここまでの課題解決の過程について確かめ、思いや願いを新たに伝統文化と自分とのかかわり方を考える（総合③B態度）。こうして、自他の学びをつなぎ、学習対象に対する思いや願いを更新する子どもとなる（Cn）。

### 働き掛け5

デジタルポートフォリオを基に、「単元全体を通じた自己の変容」と「伝統芸能にかかわって分かったこと・思ったこと」という視点で、単元全体の学習を振り返る場を設ける。

単元全体を通して発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

単元全体を通して蓄積してきたデジタルポートフォリオを見る時間を設定し、視点を与えて振り返らせる。子どもは、単元全体を通して発揮してきた資質・能力を自覚すると共に、できるようになったことに自信を深め、次の学習活動を思い描き始める。

## 4 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、課題を解決し、思いや願いを更新することができたかどうか、ワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け1を受けて、総合学習に固有な「見方・考え方」を働かせていたかどうか、発言や挙手の姿から検証する。
- ③ 働き掛け3、4を受けて、想定した資質・能力を発揮していたかどうか、教師の問いかけに対する応答やVTR、発話の姿、デジタルポートフォリオやワークシートの記述から検証する。
- ④ 働き掛け5を受けて、発揮した資質・能力を自覚したかどうか、ワークシートの記述から検証する。

## 5 年間の授業計画

- |              |       |                                |
|--------------|-------|--------------------------------|
| (1) 指定研究授業   | (6月)  | 「FNS40～樽砵マスタープロジェクト～」(23時間)    |
| (2) セルフ授業研修会 | (10月) | 「FNS40～文化交流プロジェクト～」(22時間)      |
| (3) 初等教育研究会  | (2月)  | 「FNS40～大好き新潟文化発信プロジェクト～」(25時間) |